

## 1 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271101372		
法人名	社会福祉法人せいひ会		
事業所名	グループホーム翠風		
所在地	長崎県西海市西彼町中山郷2116番地		
自己評価作成日	平成25年10月1日	評価結果市町村受理日	平成26年2月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/42/">http://www.kaigokensaku.jp/42/</a>
----------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内
訪問調査日	平成25年11月15日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は、豊かな自然に囲まれた中にあり、居間からは中庭の植木や草花、畑の野菜等が見え、季節感にあふれています。私達は、この恵まれた自然環境を活かしながら、事業所の理念である『最後まで人間らしく生きてもらうこと』の実現に向けて日々の業務に取り組んでいます。ご利用者の方々には、住み慣れた土地と馴染みの人間関係の中、ご自分のペースで安心して生活して頂き、その方の出来ることに目を向ける事で自立した生活が営めるよう努めています。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は同一敷地内に老人保健施設や生活支援ハウスが併設している中に位置している。敷地の中庭には果樹や植木、草花、野菜などがある畑があり、利用者が一緒に育てている。併設の事業所と合同での研修や身体拘束委員会等の様々な委員会活動を行えることは、サービスの質の向上にとって事業所の強みとなっている。災害対策については地域住民や地元の消防団、併設事業所との連携のもと避難訓練が行われている。また事業所独自に消火訓練等を行っている。事業所の理念である「最後まで人間らしく生きてもらうこと」「悔いのない介護者であること」という理念実現への取り組みについては職員定例会議や運営推進会議等で話し合い、共有している。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	グループホーム独自の理念を掲げ、見やすい場所に掲示するとともに、日々の申し送りや全体会議等で確認し共有を図っている。ご利用者それぞれの生活環境を踏まえ、その人らしく生活できることを目指している。	理念は事業所の設立当初からのものであり、事業所独自のものである。理念は玄関のわかりやすいところに掲示しており、職員は常に意識しながらケアに取り組んでいる。職員会議や運営推進会議などでも理念について話し合っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣神社での夏祭り参加を始め、精霊流しや地域保育園での運動会参加、地元地区合同での敬老会では法人地域交流スペースを開放する等して交流している。	地域の保育園の運動会への参加や、地域の神社の夏祭り等に参加している。また併設の施設の地域交流スペースを開放して行われる地区の敬老会に参加している。近所の方や併設の生活支援ハウスの住民とあいさつなどを交わし日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	様々な地域での行事に参加することに加え、広報紙やホームページの公開も行っており、誰もが閲覧できる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度、市職員、地区民生委員、警察署員、利用者、家族等が参加し、行事やサービス内容紹介のほか、一方的な報告にとどまる事がないよう、市職員への講話もお願いしている	運営推進会議は2ヶ月に1回開催しており、毎回所定のメンバーの参加にて行われている。外部評価の報告はもちろんさまざまな議題について話し合いが行われている。利用者、家族の参加を増やしたらどうかとの意見があり、次の回より取り入れている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の開催、運営推進会議開催報告書や利用者異動届の提出、事故報告等、直接的なかわりがある。その他は法人総務部を通して行っている。	市の担当職員とは通常の連絡事項等での関わりの外に、地域交流バーベキュー等の行事に参加してもらっている。運営推進会議内で地域の介護サービスの実情を話してもらうなどして、地域の状況を把握している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内身体拘束廃止委員会を中心に、内部研修を実施し参加を励行する等して拘束のないケアに取り組んでいる。日中玄関の施錠はない。	職員は法人内の身体拘束委員会の研修会や外部の研修にも積極的に参加している。事業所独自にも委員会があり、身体拘束についてのさまざまな事例について話し合い、検討している。日中の玄関施錠は行わず、外出した場合は見守りにて対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束廃止委員会を中心とする委員会活動により、啓発を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	機会があれば研修会等に参加して成年後見制度について学ぶとともに、会議等において職員に伝達している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に利用約款に基づき十分な説明を行い、契約時だけではなく、継続的に不安や疑問点がないか尋ね、納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	相談窓口の説明のほか、ご意見箱の設置も行っている。また面会の都度本人・家族に要望を聞いたり、して運営に反映させている。	利用者の意見については日々の会話の中で把握している。家族からの意見や要望は面会時や家族参加の行事の折に聞いている。苦情相談に対する対応方法は規定に流れを明記しており、対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の申し送りのほか、月に一度在宅事業部長及びグループホーム全職員で構成する会議を実施し、意見の反映に努めている。	月に1回開かれる会議で、さまざまな意見交換が行われ、日々の運営に関しても話し合いが行われている。出された意見を報告書として、法人に提出している。汚物処理用のポリバケツの設置など職員意見が取り入れられている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は職員個々の努力や実績、勤務状況等を把握しており、法人総務部をもって体制を確保している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修案内は掲示板に掲示し、積極的な参加を促している。また研修の参加者は報告書を提出し、それを全職員が閲覧することで情報の共有ができています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	様々な研修に参加する事で交流の機会を作り、サービスの質の向上を目指している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確認するための関係づくりに努めている	より具体的な要望が得られるように、サービスのご利用以前に本人様を訪問しご希望を伺う事を原則とし、入居後も継続的に要望を確認している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居契約時には必ずご希望や疑問点がないか確認し、また入居後も日常生活の中から等、継続的に要望を確認している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人様やご家族のご希望を前提として、まずどのような支援が必要なのか、他事業所とも十分協議しながら方向性をを見極めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人様を介護される一方の立場に置く事はなく、一つ屋根の下、共に暮らす生活共同体としての関係を築きながら、畑仕事等は利用者より教わる姿勢を大切にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族も利用者を支援し得る対象の一つとしてとらえ、事業所と共に支え合う体制作りに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご希望に応じての外出支援等、ご家族にも呼びかけて協力を得ている。	利用開始時には可能な限り自宅を訪問し、身体状況の把握を行い、家族や本人から生活歴等の情報を得ている。家族の協力を得ての墓参りや知人の訪問の支援等行っている。面会時間の制限はない。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	家事の協力やレクリエーションの参加で時間を共有出来ると共に、利用者・職員が同じ食卓を囲む事でより深く関わり合い、人間関係を育む事が出来る。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスの利用が終了となっても必要に応じて相談を受け、当事業所のほか法人全体でも関わり、継続的な支援に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の生活や暮らしの中で、自然なかたちで希望や意向を引き出すように努めている。また言語表出の困難な利用者については、生活歴や家族の意向を交え検討している。	日々の会話やレクリエーション時に本人の意向をくみ取っている。利用者と一対一で話せるスペースがあり、その日の利用者の意向は申し送りを確実に行うことによって共有している。意向の把握が困難な利用者に対しては家族からの情報や日頃の生活習慣から本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に本人様を訪問することを原則として、ご家族や他事業所から情報を収集し、併せて日々の生活や暮らしの中から引き出すように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日によって心身の状態は変化する為、変化や気付きについては記録や申し送りを通して把握している。また過剰なケアはせず、出来ない部分を介助するケアに努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日常生活のなかで本人様の希望を聞きだしたり、ご家族の面会の際には話を伺う等、立案に反映させている。	介護計画を作成するためのサービス担当者会議にて全職員の意見を取り入れながら作成されている。会議には家族の参加もあり、本人・家族の意向は必ず聞くようにしており、計画に同意を得ている。介護計画を確認しながら経過を記録し、支援に努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	事故防止の観点からひやり・はつとを記入している事に加え、日常の暮らしぶりは介護記録として残す事で、職員間で情報が共有出来る。またそれらを参考にしながら介護計画の見直しも行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	法人内には様々な設備があり、利用可能である。またご希望に応じて書道クラブへの参加や売店の利用も出来る。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域保育園での運動会や夏祭りへの参加、近隣高校からの実習生受け入れ等を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居契約の際にはご本人や家族と話し合いかかりつけ医を決定している。かかりつけ医からは十分な協力体制が得られている。	本人、家族の意向を尊重し、以前からのかかりつけ医の受診支援を行っている。かかりつけ医を変更する場合は、本人・家族の了承を得ている。かかりつけ医でもある協力医療機関とは夜間対応を含め十分な協力体制がある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設している介護老人保健施設の看護職員及び協力医療機関の医師と協働し随時報告・連絡・相談を行いながら適切な受診や看護を受ける事が出来る。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は本人・家族の意向を踏まえながら、医療機関の医師やワーカーと随時情報交換を行い、早期に退院できるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の際、当事業所も多数あるサービスのうちの一つであり、本人様のその時の状態によって、より良い環境でサービスを受けられる体制にあることを説明している。心身の状況変化に応じて随時対応を検討している。	終末期ケアの研修を受講し、研修結果の報告を行っている。看取りに関する指針は文書化しており、利用開始時には説明を行っているが、現在看取りは行っておらず、指針との整合性がとれていない。	利用者や家族の要望を汲み取りながら、事業所での看取りも終末期に向けた支援の選択肢の一つとなるよう体制を整えていくことを期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応については日頃より周知しており、状況に応じて併設している介護老人保健施設の看護職員の応援も得られるようになっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間の想定も含めた避難訓練を実施しており、法人内の隣接施設のほか、消防や地域住民の参加もある。尚、緊急連絡網には区長や消防団長も組み込まれている。	年2回消防署立ち会いの避難訓練を実施している。事業所でも消火訓練やその他災害訓練を自主的に行っている。地域の消防団、地域住民、併設施設の職員の参加のもと、夜間想定避難訓練が行われている。緊急時に備えて水や備蓄品などの準備を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の性格や特徴を理解し、介助の際の対応マナーを全職員で見直しながら、尊厳を重視し利用者のペースに合わせて支援を行っている。	失禁時には人目に触れないよう、共用スペースから離れたトイレを使用し、プライバシーに配慮している。個人情報がかかる書類については事業所の適切な場所に保管されている。写真掲載については利用開始時に説明し同意を得ている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご自分のペースで生活して頂く事を前提に、散歩や行事への参加等、自分自身で選択出来るよう、さりげない声かけを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	人りひとりの生活のリズムを大切にし、利用者のペースで生活出来るよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	併設している介護老人保健施設へ月に一度美容師の訪問があり、ご希望に応じて利用されているほか、事業所に化粧道具があり、行事やご希望によって化粧ができるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者それぞれの状況に応じてソフト食や減塩食、アレルギー等への対応が可能である。利用者と一緒に盛り付けや食器拭きを行い、同じ食卓を囲む事でその食材にまつわる会話等も出来ている。	利用者は食事の配膳準備や後片付けを行っている。職員は利用者と同じテーブルで献立の説明をしながら一緒に食事をしている。正月や節句などは季節の特別な料理を用意して食事が楽しみになるよう支援を行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	記録により摂取量の把握に努めており、利用者の状態に応じて御粥の提供を行ったり、水分の摂取量が少ない方には、随時飲み物を変えて提供する等して工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご利用者の状態に応じて声をかけており、必要によっては磨き直し等の介助を行っている。入れ歯洗浄剤を使用される方等様々である。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご利用者の状態により、必要と思われる方にはチェック表を作成し、排泄パターンの把握に努めている。また、おむつ使用時もあるだけ終日使用するのではなく、夜間のみ使用し、自立に向けた支援を行っている。	トイレでの排泄支援を行うことによって、利用開始時にはおむつだった利用者がリハビリパンツ、尿パッド、布パンツに改善している。夜間、トイレで排泄する利用者には職員が支援しており、現在ポータブルトイレを使用している利用者はいない。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	入浴時に腹部のマッサージを行ったり、散歩やラジオ体操を実施する等して便秘の予防に取り組んでいる。また、随時の水分補給に加え、毎朝乳製品を提供している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴回数や入浴日、石鹸やシャンプー等もご利用者それぞれであり、ご希望があれば法人内の展望風呂も活用できる。又、ゆず湯や菖蒲湯など季節感を味わって頂く取り組みも行っている。	ある程度入浴日程は決まっているが、その日の利用者の状態、気分による希望を優先させている。シャンプーや石鹸、ボディソープなど本人・家族の希望するものを使用している。庭でとれるゆずや菖蒲などで季節のお湯を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動において、散歩やレクリエーション等でリズムを作り、夜間の空調や照明にも配慮する事に加え、それぞれが安心して休む事が出来る寝具を使用している。冬場、湯たんぽを使用する方もおられる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	かかりつけ医により指示を得ているほか、ケース記録内に薬表をファイリングして常に確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活の中で、洗濯物たたみや食器拭き等、自然に役割が分担されている。また行事やレクリエーションへの参加、売店での買い物も支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩のほか、ご家族の協力を得ながら外出や外泊も支援している。墓参り等に出かけられる方もいる。	中庭の散歩に出たり、花見、祭りなど行事の際に外出している。買い物は法人が定期的に運行している買い物バスを利用した支援があり、車いすの利用者も同様に支援が行われている。外泊や墓参り等は家族の協力を得て行われている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自分で財布を所持されている方もおられるほか、売店の利用等で金銭が必要な場合は総務部にて対応も出来る。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	必要に応じて介助を行っており、手紙は総務部にて預かることができる。又、電話については併設施設の公衆電話を利用している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間には椅子やソファー等、思い思いに過ごせる場所を設けている。また玄関周りには季節ごとに花を、畑には野菜等を植え、家庭的な雰囲気の中で過ごせるように配慮している。	共用空間は職員と一部の利用者が毎日掃除している。温度、湿度は温度計、湿度計によって職員が管理している。利用者と職員が一对一で話せる談話室がある。玄関には季節の花々や果実などを飾り、季節を感じ取れる工夫を行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室のほか、テーブル席・ソファー・談話室・縁側等形の違った場所を確保し、思い思いに自由に過ごして頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族の協力を得ながら使い慣れた家具や食器などの物の持ち込みがある。ご自分の部屋として安心して過ごして頂いている。	居室の清掃が一緒にできる利用者は職員と共に毎日行っており、困難な場合は職員が清掃している。利用者と家族の希望でゆたんぼや筆筒、衣装箱など使い慣れた物が持ち込まれ、利用者それぞれの個性的な居室になっている。掃除の時に空気の入れ換えを行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	食事の際には専用の椅子を準備したり、入浴の際には滑り止めマットを活用する等安全面に配慮している。		